

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために

社会福祉法人達生堂で研修会

新型コロナウイルスの感染拡大を水際で食い止めようと、社会福祉法人達生堂の特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」と介護老人保健施設「すばる」、通所リハビリセンター「茶釜の湯」、関連施設のショートステイ「みぶの杜」の職員を対象にした研修会が6月9日、ヒューマン・ハウス2号棟で開催されました。

講師は、社会医療法人達生堂「城西病院」の院内感染対策委員会で、委員長の村田智史医師が専門的な観点から、分かりやすく新型コロナウイルスについて解説し、予防策などについて講演しました。

村田委員長は、最初になぜ病院や施設などで発生するクラスター（集団）感染が怖いのかを解説。全国の医療機関で約100施設で発生、その3割が医療従事者から始まり、入院・通院する高齢者が感染した場合の死亡率が極めて高いことなどを説明。城西病院の新型コロナウイルスに対する取り組みとして①玄関や病棟での検温②面会の禁止（現在は面会制限）③手指消毒の徹底④院内でのマスク着用⑤定期的な換気一などの対応策を紹介し、外来と入院で感染の疑いがある場合に病院とは別棟でPCR検査を実施したり、疑いのある人が入院しなければならない場合に備えて陰圧装置（ウイルスが病院内に飛散するのを防ぐ）を備えた部屋を準備するなどの対策を紹介しました。

続いて、感染経路の説明では、新型コロナウイルスは飛沫（くしゃみなどによってウイルスを空中に飛散させる）感染、エアロゾル（空気中に漂う）感染、接触（感染者やウイルスが着いたものに触る）感染によって感染することを説明。対策としては、手指消毒やうがい、マスク着用、目や口・鼻を触らない、人混みを避ける一を挙げました。そして接触感染を防ぐためにドアノブや手すり、洗面台、トイレ、エレベーターのボタンなどのこまめな消毒、飛沫感染を防ぐために人と1m以上の距離を開けるソーシャルディスタンスとマスクの着用、エアロゾル感染を防ぐため1～2時間に一度の換気が必要と訴えました。

最後に、高齢者と身近に接する職員自体が感染しないこと。体調が悪い時などはまず相談して、職員自体



が感染源にならないことが一番大切と訴えました。ふだんの生活の中で、密閉、密集、密接の三密を避けること、まずは職員1人1人ができることから感染を防ぐことの大切さを強調しました。

2020年6月10日

